（様式第1号）

研究No.（記載不要）	20－学長－ 2

平成20年度配分 研究成果の概要

研究名	ネット販売の教育的可能性に関する研究（二次）				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費　重点テーマ 1）技術と文化の融合　2195 千円				
研究者氏名（代表者）	学部名（研究科名）	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン学部	メディア造形学科	講師	和田 和美	システム構築検証 WEB教育への応用
共同研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	坂本 鐵司	生産造形成果の適用可能性検証
	デザイン学部	空間造形学科	教授	鳥居 厚夫	空間造形成果の適用可能性検証
	デザイン学部	生産造形学科	准教授	山本 一樹	生産造形成果の適用可能性検証
	デザイン学部	メディア造形学科	准教授	佐藤 聖徳	メディア造形成果の適用可能性検証
	デザイン学部	メディア造形学科	准教授	羽田 隆志	情報関係サービスの可能性研究
	デザイン学部	メディア造形学科	准教授	的場 ひろし	情報関係サービスの可能性研究

発表の方法（予定で可）	① 紀要	号数	第 10 号（2009年11月発行）
	2 学会等での発表 学会等名：	発表日（発表予定日）	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法：	発表日（発表予定日）	平成 年 月 日

注：配分を受けた翌年度の6月末までに提出

（研究の目的等）

本研究は、本学における研究成果のアピール手段の一つとして、ネットショップが果たす役割を考察し、試作検証等を通じて商品像を検討・提案し、大学の「ネットショップ開業にいたる準備検討のプロセス」「ネットショップ実現のための諸開発」「ネットショップ運営」の各フェイズを実践的に学ぶことで、本では学べない各種ノウハウや、運用上の留意点を体得することのできる、教育システムの構築可能について、調査及び検証実験を行い、本学で備えるべき実践的な基盤の形態を提案することを最終目的として、スタートしたものである。
また、ネットショップに関する潜在的需要を持つ、浜松、静岡の地元企業に対して、実践的なアドバイス、コンサルテーションを行うための、ノウハウの蓄積、システム基盤の構築を行うことで、地元の貢献にも役立てるねらいも持っている。

（研究の実施方法等）

ネットショップの運用事例として、大学、公共団体のネットショップを調査する。調査結果を検討した上で、教員と学生の運営分担、各種サークルとの関連性、また学友会との協力関係等を考慮に入れて、本学において永続的に運営できるネットショップ形態、システム構成の可能性検証、提案を行う。
またこれらの活動を通して得た知識や、構築した検証システムは、WEB教育カリキュラムへ効果的に反映させる。また、本学の成果の告知、流通の場としてのネットショップで扱うべき、商品検討も行う。候補としては、本学講義資料などの出版、海外の未翻訳の学術書（デザイン理論）和訳、その他地域の各種企業との連携による新規商品（文房具、楽器等々）があげられる。
本研究の二年目である平成20年度は、ネットショップ開業準備として主に大学グッズの企画及び試作と、それらを掲載したネットショップサイトの雛形制作を進める。

1）大学が運営するネットショップ・システムの検証
2）本学学生・関係者と連携した商品開発プロセスの検証
3）地域と連携した商品開発の可能性の検証

一番大きな課題である、大学が経営する販売システムの方法を探り、問題点を明らかにする。既存の大学が経営するケースとして、東京大学や立教・早稲田大学のネットショップ等をリサーチし、本学が経営する公式のネットショップの方向性と構築方法を考察する。また、ネットショップが立ち上がった後、業者等に委託するのではなく、OB会や学生サークルなどと連携して、永続的にメンテナンスし、更新・運営していく方法を具体的に固める。
一方、商品開発面では、既存の学生・教授の制作物やアイデアを元に、具体的に商品化できる物と、商品化する取引業者を選定し、効率良く製品化するプロセスを考察するのと併行して、本学内で商品アイデアを募る方法も検討する。

（得られた成果等）

前年度は、量販店のような品物数は必要なく、ユニークな商品を選び、集める形態が最適であるということになり、美術館のミュージアム・ショップのような、セレクトショップ的な形態を目指す方向性を検討し、グッズの試作もそれに特化したものをいくつか制作したが、一般的なお土産としても買いやすいモノを、という声が文政学部から上がったことから、本年度はまずニーズにも応えるべく、教職員を対象にしたアンケートを実施した。その結果、文房具／生活雑貨／食品／おもちゃ／ユニバーサル・デザイン／記念品という6つのカテゴリーを設定し、ロゴ入りマグカップからエコバッグまで、約93種の商品候補をピックアップした。
試作を始める前に、ショップのアイデンティティーとして、第一カラーにオレンジ色(DIC164)、第二カラーにシルバー(DIC621／使用できない場合は灰色DIC652)、そして第三カラーに大学カラーの青色(DIC222)を設定し、制作したショップ・ロゴもそれで展開した。ショップのロゴ・タイプは、生産造形学科卒業で浜松のグラフィック・デザイン事務所で働く稲垣さんに依頼して制作してもらった。
商品試作の方法としては、学生や教員から出てきたアイデアを元に、地元企業に依頼するオリジナル型あるいはコラボレーション型、すでに売っているユニークな商品を卸してもらうセレクト型、大学のイメージに則したノベルティグッズをセレクトして名入れするノベルティ型の3つの方法をとった。カテゴリーと試作の方法は、部分的に偏りすぎないよう、あるいは特化しないよう、うまくバランスをとりながら発注していき、結果的に約80種ほどのラインアップを揃えることができた。以下はカテゴリー毎、試作方法毎に主な試作物を紹介していく。

商品カテゴリー
A:文房具
B:生活雑貨
C:食品
D:本／DVD／おもちゃ
E:ECO
F:記念品

試作方法
1.コラボレーション型
2.セレクト型
3.ノベルティ型

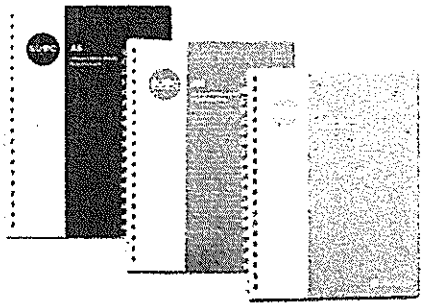
●A：文房具

A-1：A5ノート３種

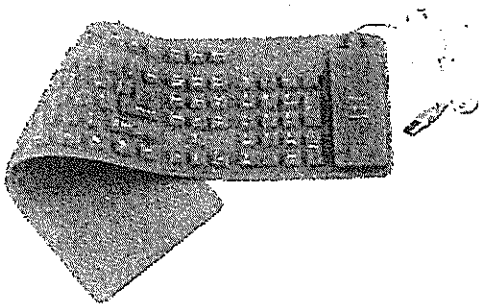
これは印刷物なので、コラボレーション型でもないが、文房具マニアの和田としては真っ先にオリジナルを制作したいと考えていたA5仕様のノートなので、デザインは和田が担当した。ショップ・カラーで設定したオレンジ色、シルバー(試作は灰色)、青色の3種で、色違いで仕様が判別できるように、ドットパターン／グリッドパターン／C罫を制作した。展示会では、併せて無地仕様のも作ってほしいという要望が相次ぎ、意外に無地ノートが市場にないことに気づかされた。試作ではシルバーで印刷できなかったので、灰色でC罫を作ったが、C罫は試作同様灰色展開にして、無地を新たに制作する際は、シルバーで印刷して4種をまかなうよう今後検討しようと思う。

A-2：フレキシブルUSBキーボード
ユニークな輸入雑貨を取り揃えるショップをインターネットで発見し、いくつかを卸してもらったうちの一つ。海外のミュージアム・ショップ等でも絶えず面白グッズを探している身としては、日本でも購入できることを知った程度だったが、展示会での反響はすごく、改めて面白グッズを紹介していくセレクトショップとしての機能の必要性を実感した。実用性はどちらかというと棚上げモノであるが、比較的安価なことから人気が集中し、欲しいと思ったものに丸いシールを貼る人気投票では、みごと1位を獲得した。

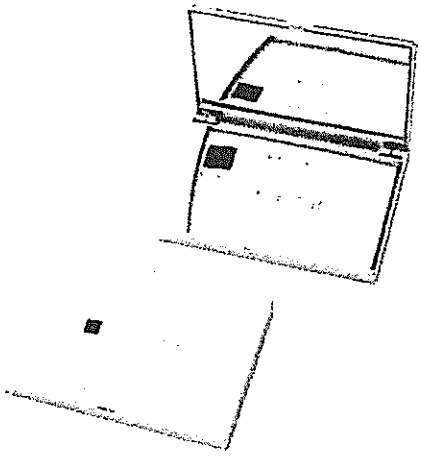
A-3：ネームカードケース・ミラー付
文房具や生活雑貨など、機能性を伴う製品は、一から制作すると非常にお金と時間がかかることから、すでにあるものでまかなう方法も有効だと考え、名入れ印刷してオープンキャンパス等で配ったりする、いわゆるノベルティ方面も視野に入れた。その代わりセレクト型同様、ショップ・カラーに即してデザイン的にも統一感あるラインナップを心がけた。このネームカードケースは特に、本体の色はシルバー系、材質は、ステンレスやシルバー色の樹脂といったセレクトしたシルバーシリーズの一つである。



A-1：A5ノート3種



A-2：フレキシブルUSBキーボード



A-3：ネームカードケース・ミラー付

●B：生活雑貨

B-1-1：カレンダー卓上型「祝日暦」

偶然であるが、オリジナルのカレンダーも試作したいと考えていた所、2008年当時3年生だったメディア造形学科の小田さんが、メディア造形総合演習1における制作物として、CDケースに収まる卓上型のカレンダーを提案、試作したので、そのデータを持って印刷所にて試作印刷した。もっと日本の少ない祝日の意味を知って、楽しめるように、特に祝日の情報を特化させたデザイン展開で、展示会でもとても評判が良かった。今後も制作して販売していく場合、データを更新して印刷していくのと、その部数が課題である。

B-1-2：テーブルウェア「cedemo」

この作品は、共同研究者の生産造形学科の山本先生より紹介されたもので、生産造形学科の卒業生である山浦陽介さんが制作し、第17回テーブルウェア大賞にて佳作入選している。土器のような3種の形は、上の曲線や突起が微妙に異なり、塩・こしょう・砂糖というように形で使い分けることができるユニバーサル仕様でもある。

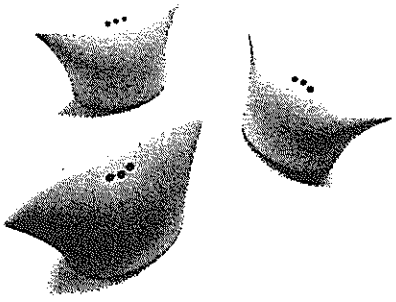
B-2：「お茶のせっけん・Duthe」

結果的にセレクト型に属するが、商品を扱わせてもらう大学の存在意義としてパッケージデザインを制作させてもらうという条件でお願いしたものもいくつかある。これは近年クローズアップされているお茶のせっけんが、浜松の緑茶メーカーでも制作・販売されていることを発見し、直接交渉して卸してもらうようにしたもの。展示会では、すでに売られているパッケージ・デザインの仕様のまま展示したが、今後SUAC仕様のパッケージ・デザインを制作して扱わせてもらうことで話が進行している。

B-3：「緊急避難セット」

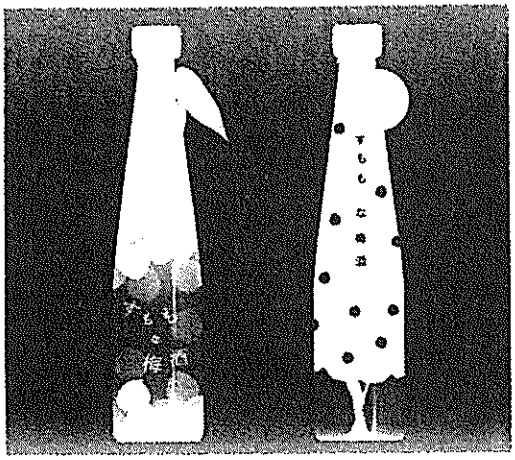
地震地帯として必須であるグッズでまず考えたのが、この緊急避難セットである。多くのセットや構成をリサーチしたところ、実際に企画・販売されている規格は非常に多様であるが、いずれも中身に対して高価であることが、緊急避難グッズのネックにもなっていることが伺えた。まずはデザイン性を損なわない程度に基本のセットをノベルティ関係からセレクトし、さらにカンパンやハザードマップ等を追加することに検討している。結果、価格設定が難しいことになるが、商売を目的としているのではないので、上代が例え下代の九掛けになっても学生が持ちやすい価格設定で商品規格を進める予定。

B-1-1：カレンダー卓上型「祝日暦」

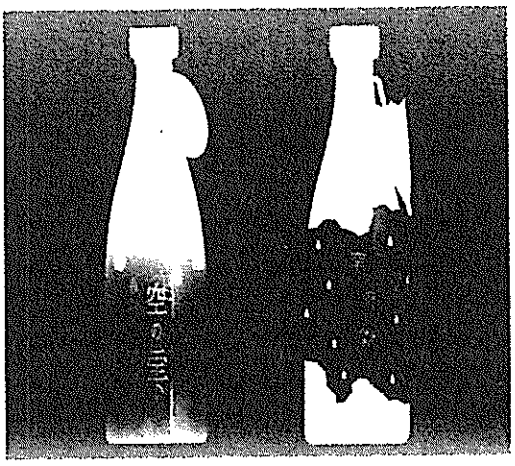


B-1-2：テーブルウェア「cedemo」

3

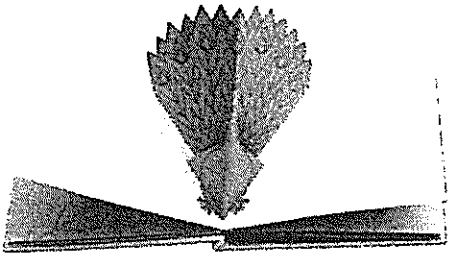


C-1：浜松酒造「すももな梅酒」



「空の雫」

C-2：「みんなのお店[わ]クッキー／クッキーセット」



D-1：学生手作り飛び出す絵本
「どうぶつさん、だぁーれ？」

●C：食品

C-1：浜松酒造「すももな梅酒」「空の雫」

やらまいかブランドの伝統工芸等を持つ企業に当たっていく中で、浜松酒造さんは学生に機会を与えてくれる非常に好印象の相手である。すでに蔵のビール釜で学生に仕込ませて、SUACビールを提供してくれているが、今回はお土産に最適なラインナップとして、酒造さんがすでに販売しているお酒のパッケージデザインを企画・制作させてもらうことになった。一種はスモモと梅の勾配種でできる、学生が好みそうな赤い梅酒「李梅」、もう一種は蔵出しの純米酒「天滴」で、瓶の青が鮮やかな一品。聞けば青の瓶の色は、この品種の特性や味わいに合わせて決められるそうで、一方「李梅」の方は中身が鮮やかなロゼワインのような色がそのまま見える透明の瓶が使用されていた。それらをそのまま生かしたパッケージ・デザインを考案することが検討された。また、ネーミングも新規に提案して欲しいという酒造さんの要望もあり、学生の視点でのネーミング会議が連日進められた。特許庁にすでに登録されていない名前をやっと割り出し、併行してメディア造形学科の当時3年依田芙侑さんがデザインを担当し、瓶の青と梅酒の赤を活かした美しいデザインが仕上がった。今後、「すももな梅酒」「空の雫」の2種の商標登録をしなければいけない。

4

C-2：「みんなのお店[わ]クッキー／クッキーセット」
安全基準がきびしい昨今、なかなか食品の開発には手が出せないが、ぜひラインナップに加えたいカテゴリーであるので悩んでいた所、このクッキーシリーズは、生産造形学科の高山先生が紹介してくれたもので、非常においしかったので、セレクトで扱わせてもらうことにした。河原林先生が長として、高山先生も関わっている「静岡県作業所連盟」いわゆる授産所関係の「わ」という作業所で長年商品化を進めていたもので、すでに人気が高いそうだ。扱わせてもらうことにした時点では知らなかったが、生産造形学科の卒業生がパッケージ・デザインを制作したとのことで、結果的にコラボレーション型であるともいえよう。

●D：本／DVD／おもちゃ
D-1：学生手作り飛び出す絵本
「どうぶつさん、だぁーれ？」「いたずらねこのかくれんぼ」
学生の手作り絵本は、前年度に計14冊×10冊ずつ、製本試作したが、この中で2種類は開くと飛び出したり扉を開くといった仕掛けがあるもので、前年度にその作業までまかなうことができなかったため、今年度の中で仕掛けの部分を印刷してもらい、学生に貼る作業をしてもらった。

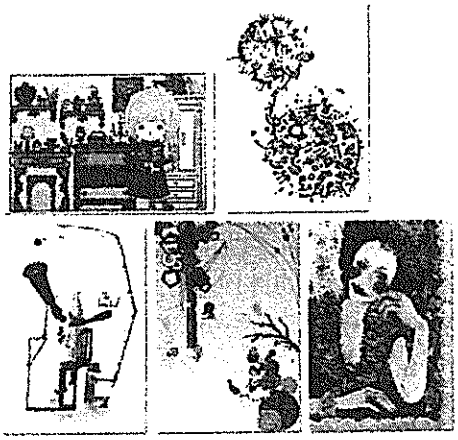
D-2：「BATH PLANETARIUM BLACK」
USBキーボードを卸してもらったショップで同様に発見した面白グッズの一つ。「DROP BATH LIGHT」とともに、パッケージ・デザインも含めてトータルで素敵なデザインは、癒し系でもあり、展示会でも非常に人気が高かった。「DROP BATH LIGHT」は、風呂に沈めて初めて発揮するので、展示会で体験に近づけるよう、ボールに水を張って中に入れ、色の変化を再現した。電池仕様とはいえ、水の中で扱える照明器具の企画制作にも感心した。

●E：ECO
E-1：「遠州綿紬」ぬくもり工房「My袋セット」
やらまいかブランド「遠州綿紬」を扱うぬくもり工房には、いくつかの商品企画を提案し、2種ほど試作してもらい、2種ほどすでに販売されている商品を扱わせてもらうこととしたが、この「My袋セット」はさらに、メディア造形学科当時3年の前田侑穂さんデザインを、静岡県作業所連盟の作業所が制作したという、まさに3者のコラボレーションが成立した一品。

E-2：「もったいない携帯カトラリーセット」
MOTTAINAIシリーズは、「もったいない」という言葉のすばらしさに喚起したアフリカ人女性が決起した運動で、このカトラリーセットの売り上げの一部が、アフリカの植林運動の基金に還元されるというシステムが確立している。昨年このアフリカ人女性が国民栄誉賞を受賞したのはまだ記憶に新しい。前から商品の存在を知っていたため、卸業者を探していたところ、これを扱うノベルティ業者を発見した。ノベルティ扱いとして名入れをしたが、意味的にはセレクト型といえよう。

E-3：「コンパクトトートバッグ」
現在、エコバッグは実に多様に展開していて、使い勝手がよさそうで、かつデザインや色もショップに即しているものを探す中で、このエコバッグの制作業者選定が実は一番難航した。当初から外国で買って重宝していた、コンパクトに折り畳めて

バッグの中に入れて携帯できる「Bag in Bag」仕様を探していたのだが、これはリサーチしていくうちに、いわゆる「エコバッグ」と言われるものの解釈とは微妙に違うことがわかってきた。つまりエコバッグではあまり、折り畳んでコンパクトになるような仕様がない。それで結局、コンパクトに折り畳める仕様を中心に探し始めたが、すでに規格であるものは「帯に短し、たすきに長し」で、あまりコンパクトでなかったり、色が中途半端できれいでなかったり、どれもこれも今ひとつ選びきれなかった。そこで最終的につなぎやTシャツ、マグカップの印刷をお願いした香川県の業者で、このバッグの名入れサービスも行っていたので、ついでに少ない枚数で試作してもらった。到着したら、やはり、というか、インターネットの写真で見ていたのとは大分違うので驚いた。色も違うしサイズもイメージより大きすぎるし、折り畳んでもあまりコンパクト、という状態ではない。これは「失敗作」の一つとなったが、試作とはまあ、このためにある訳で、次回はリベンジでゆっくり探したい。



E-1:「遠州綿紬」ぬくもり工房「My袋セット」　F-1:ポストカード「イラスト編」

●F：記念品

F-1：ポストカード「イラスト編」「写真編」

せっかくイラストを描く学生がいっぱいいるのだから、ということで、デザイン学部がある大学ならではのラインナップとして、学生イラストでポストカードを試作するために、メディア造形学科のめぼしい学生にイラストのデータ提供を要請した。写真編はSUAC校舎の特徴的な建築を活かした写真を取り急ぎ撮影したが、冬の時期だったため、緑があまりきれいでなかった。これはデータを更新するというよりも、イラストも写真もバリエーションとして追加していって、ミュージアム・ショップのポストカードコーナーのように、多くのポストカードを販売できるよう検討していきたい。

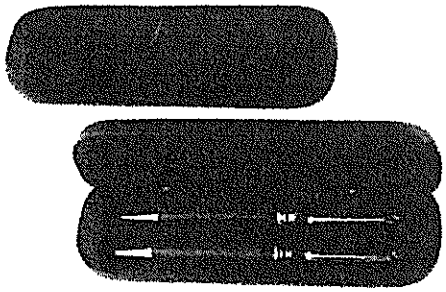
F-2：「遠州綿紬」ぬくもり工房「ネクタイ」

文政学部の教員側からの要望として、ぜひネクタイを、というものがあったため、「遠州綿紬」のぬくもり工房にて扱わせてもらう商品を選定している際に、ネクタイがあったのでとりあえず卸購入させてもらったが、作家が制作した一点物だったため、卸の時点で下代が5,000円とされた。商品ラインナップにおけるリサーチの際に、ネクタイを使用するシーンやネクタイのターゲット層も検討していたが、単純なイメージとして学生が就職活動前に買うという設定で行くと、下代で5,000円という価格では非現実な感じがしたので、お土産に買うもしくは中年層がちょっといいも

6

のを買うという設定で、カテゴリーを「記念品」扱いとしてみた。しかし同工房の商品の扱いがショップのラインナップの中でも割と多かったため、バランスを考えて最終的にこのネクタイは展示するものからははずした。後に中年男性と話をしていく中で、ネクタイで5,000円は高くない、と言われたので、価格設定はこの辺で、再検討してみたいリストとなった。

F-3：「太軸ウッドペンセット(ローズ入)」
木工製品のラインナップは、やらまいかブランドでもある「天竜杉」でぜひ試作してみたいものがいくつかあったが、当たった業者が建材専門で、小さい商品試作には到底たどり着けないと判断し、一時途方に暮れてしまった。後に静岡県では島田方面に、小振りの木工製品を扱う業者がいくつかあることを口コミで知ったが、業者探しで時間が取られてしまい、結局間に合わなくなったので、ノベルティ関係の中で木工製品を探した。名入れがレーザー刻印で工業製品的だが、手作りとはまた違う印象のバリエーションとしてのラインナップとなった。



F-3：「太軸ウッドペンセット(ローズ入)」

●番外編 1
山本先生作　カレッジリングのための参考作品「シルバー・ジュエリー」
海外の有名大学のカレッジリングをまねて、試作してみようと試みたが、日本国内でリサーチした所、カレッジリングを大学として制作しているところは皆無に等しく、カレッジリング制作企業がメインで、しかも価格も1−2万以上とかなり高価であった。いずれも個々の名前と卒業年度を入れるため高価になるのだが、そういった規格とは別のタイプで、比較的安価で企画する術を探った。大学の工房や機材、専門家の力を借りて、元の型等、内部でまかなえるモノはまかない、量産する分は浜松のジュエリー制作業者に委託する方法が考えられた。そこで銀作品を扱う山本先生と検討していた最中に、山本先生が急遽手術ということになり、進行がしばし途絶えることになった。しかし展示会では術後まもない山本先生にお願いして作品を展示させてもらうこととしたところ、やはり何かモノがあることで、商品候補としてのカレッジリングが具体的にイメージしてもらえたようであった。

●番外編 2
佐藤先生作「おざぶコースター」など木工製品数種
木工作品を専門とする佐藤先生には、以前よりぜひショップのための商品企画の

提供を要請していたのだが、木工であるがゆえに、どうしても量産しにくい部分で、頓挫気味だった。しかしこれも参考作品ということで、何度か頼み込み、作品を展示させてもらうことになったが、量産あるいは卸入荷が確保されている他の商品とはすみ分けて、参考作品はポイントによる人気投票からははずしていた。しかし展示会が始まって4-5日経ったところで、気がつけばシールを貼るブロックメモが参考作品にも設置されていて、すでに大量のポイントが投票されてしまっていた。図らずも参考作品も人気投票に取り込まれてしまったが、前年度から試作していた「音球」は、量産業者が未定にも関わらず人気投票で2位に入ってしまい、佐藤先生の「おざぶコースター」も4位に入ってしまった。いずれも今後は、この量産体制確保が最重要課題である。

商品試作と併せて、和田の座学「エンタテインメントシステム論」におけるプロジェクト編成時に募ったメディア造形学科の3年生有志がネットショップ本体の制作を進めた。「エンタテインメントシステム論」ではまた、ショップのグッズ企画制作チームも編成し、展示会までの色々なプロセスは、このショップサイト制作チームとグッズ企画制作チームが中心となって作業してくれた。こうして実質、学生が積極的に関わってくれたことで、内容的にはまだまだ問題があるかもしれないが、実践としての作業が学生を大きく成長させたようなので、特別研究の意味が実現したように思われる。
ショップの構築は今後、決済システム等セキュリティ面を強化して構築するために業者に制作委託する必要があり、グッズも再試作するものや、新たに別の教員のCADの演習にて学生がデザインしたものの試作等があるが、今まで関わったスタッフの努力が報われるよう、なんとかショップ開設、グッズ販売までこぎつけたいと追い込みをかけている。